

『ドスケベ看守長』

～変態更生プログラムにはとろとろおまんこ報告が必要です～

■キャラクター詳細

●杜瀬崇敬（もりせたかあき）
32歳。

ヒロインや一般人の前では大変優しく穏やかだが同僚や受刑者にはとても厳しくかなり冷酷な一面がある。規則を守らない者へはゴミを見るような視線を向け、丁寧な言葉で罵る。

その姿を見たことがある者からはドS・鬼畜扱いを受けているが本人的には自覚症状がなく、そのように思われているとは夢にも思っていない。規則を守らないものが許せないだけ。

●主人公
26歳

飲食サービスのキッチン業務をしている。

この度、主人公が働く会社が刑務所内の社員食堂サービスを請け負うことに。

主人公は会社内の社員食堂から、刑務所社員食堂へ異動する。

刑務所内という特殊な環境にドキドキしていたが、基本的に刑務官はみんな優しく楽しく仕事をしている。特に紳士的な看守長である崇敬のことが気になっている。

●あらすじ

刑務所の社員食堂で働き始めた貴女。

食堂の営業時間終了時刻に駆け込んできた看守長の崇敬。

時間外ではあるがお腹を空かせた彼を放っておけず簡単な料理を作って出すことにした。美味しそうに平らげた彼だったが疲れていたのかグラスを倒して看守服をお茶で濡らしてしまった。貴女はしゃがんで彼の服を拭いてあげていたがズボンが盛り上がった瞬間に気が付き…

◆トラック1

●収録区切り①

■場所：社員食堂

■時間：夜

社員食堂内で食器を洗い、後片付け中の主人公。

SE：水道を流しお皿を洗う音

SE：蛇口をひねり水を止める音

SE：お皿を力チャカチャ重ねる音

駆け込んでくる崇敬。

SE：駆け込んでくる足音

DHM⑩

崇敬「（息を切らせ）すみません！ まだ何か食べられますか!？」

主人公「あ、もう終わってしまっ……」

DHM⑨

崇敬「（がつくりと）あゝ、そっかあ。終わっちゃったかあゝ！

いや、そうですね。

もう21時半になるんですもんね……社員食堂はおしまいの時間か。

後片付け中に入ってきてしまっ……すみません……

失礼しました」

主人公「ご飯、まだだったんですか?」

崇敬「（苦笑し）ええ、そっなんですよ。

仕事でバタバタして夕飯を食べ損ねてしまいました。

昼も食べられなかったので、夕飯くらいと思ったんですけど……

すみません、失礼しました」

主人公「えっ、大丈夫なんですか!？」

崇敬「そうですね……」

「この辺って昔からお店できないんですよ。

刑務所のそばですじ。」「ンビニが1軒くらいあれば助かったのにな……」

まあ、勤務終わりに何か食べて帰りますよ。では、お疲れ様です」

主人公「待ってください！ チャーハンでも構いませんか？」

DHM⑩

崇敬「え？ チャーハンでもって……え、ええ。大好物ですけど」

主人公「よかった。それならすぐできるので待っていてください」

SE:カチャカチャとボウルが鳴る音

崇敬「まさか作っていただけなんですか？ もう終わりなんじゃ……」

主人公「時間外に作るのはよろしくないと言われているので

秘密にしてください」

SE:チャーハンを炒め始める音・継続

DHM⑨

崇敬「(慌てて)そんな、無理しないでください……！

閉店後に料理をするのはだめだと言われているんですよ？

ルールを破らせるわけにはいきませんー！」

主人公「ルールは守るためにありますけど、ケースバイケース。

破っても問題ない場合もあります。

それはみんなが幸せになるケースです」

崇敬「(噛み締めるように)」

ルールは守るためにあるけど、ケースバイケース、か……

確かに、君の言う通りかもしれないですね。

みんなが幸せになるケースなら、破っても問題はない……

うん、勉強になります。

では、お言葉に甘えてしまっていていいでしょうか？

正直お腹が空いてどうしようかと思っていたところだったので。

本当に助かります」

主人公「いえ！ 食堂の入り口だけ鍵を閉めてもらえますか？」

DHM^⑩

崇敬「それくらいお安い御用です。食堂の入り口、鍵も締めておきますね！」

入り口の扉の鍵を閉める崇敬。

SE.:足音・数歩

SE.:扉を閉め、鍵を閉める音

SE.:戻ってくる足音・数歩

●収録区切り②

SE:チャーハンを炒め始める音

椅子に座る崇敬。

DHM⑨

崇敬「んゝ、いい匂いだ……美味しそう。

お腹が空きすぎて一気に食べてしまいです。

」の席に座って待っていてもいいですか？」

チャーハンをテーブルに届ける主人公。

SE:チャーハンを炒め始める音・ここまで

SE:お皿に盛りつける音

SE:足音・数歩

SE:お皿をテーブルに置く音

DHM⑩やや下(下を向いて)

崇敬「ありがとうございます！ いただきます」

食べ始める。

SE:レンゲがカチャカチャお皿にぶつかる音

崇敬「(食べながら)ん、美味しい……！ んーっ。

米をしっかりと食べたの、本当に久しぶりです。

昨日も買ってきたパンをさつと食べただけだったので……

ああ、本当に美味しい」

主人公「忙しいんですね」

DHM⑪やや下(主人公の方を向いて)

崇敬「(苦笑)食べながら」

仕事のスケジュールは決まってるはずなんですけどね。

でも毎日イレギュラーなことが起きるのよ、

ずっとバタバタしていますよ。それにしても本当に美味しいですね……

社食のチャーハンって何度か食べたことあるんですけど、

段違いに美味しいかもしれません。ん、もう食べ終わっちゃいました……」

主人公「足りましたか？」

DHM⑧やや下

崇敬「（もぐもぐしながら）

んんっ、充分です、ありがとっじやいます。

つい夢中で食べちゃって……でもしつかり味わいましたので。
とっても美味しかったです。『うちそうまでした』

お茶を出す主人公。

SE:冷たいお茶の入ったグラスを置く音

DHM①やや下

崇敬「ん、すみません。お茶まで……ありがたく頂戴します。

（お茶を飲み）はーっ！ 生き返りました……

あ、申し遅れました！

私は看守の杜瀬崇敬と申します。

二つのお礼は、改めてさせてください」

主人公「おれなんてそんな。お名前は存じてましたよ」

崇敬「え？ 私のこと知っていらしたんですか？

どこかでご挨拶させていただいたことありましたっけ？」

主人公「いえ、私が一方的に知っていて……

紳士的な方だなと思ってたんです」

崇敬「紳士的？ 私がですか？

（照れて）まいったな……実際はそんなことないのに。

でもそう言っていただけで光栄です。

君は最近社員食堂に入った方ですよ？

ランチの時にもお見かけしたことがあったんです。

いつも楽しそうにお仕事してるなと思っていました」

主人公「慣れないことが多くて、ご迷惑おかけしています」

186 崇敬「慣れてないってことは、前は違う仕事をしてたんですか？」

187
188 主人公「いえ、食堂なのですが。でも前は普通の企業の社員食堂でした」

189
190 崇敬「そうか。一般企業の社員食堂で働いていらしたんですね。

191 ことは、刑務所内は雰囲気が違うから驚いたんじゃないですか？
192 僕はスタッフみんな、ピリピリしていますもんね」

193
194 DHM①やや上

195 崇敬「（ため息交じりで）

196 気を緩められない仕事だから、当然なんですけど。
197 連勤になるとちよつとしんどいですよね……」

198
199 手をひっかけ、グラスを倒してしまう崇敬。

200 SE:グラスが倒れる音

201
202 DHM①やや下（下を向いて）

203 崇敬「（慌てて）

204 ああっ！ 申し訳ありません！ お茶ごぼしちゃいました。
205 この雑巾で拭いちゃいますね。いやあ、本当に疲れてるのかな」

206
207 主人公「服にもかかっていますよ。大丈夫ですか!？」

208 SE:主人公がしゃがむ衣擦れ

209 SE:ふきんで崇敬を拭く衣擦れ

210
211 DHM②やや上

212 崇敬「すみません！ 制服は汚れも多いですし、大丈夫ですよ。

213 スポンもすぐ乾くので問題ないです。むしろ床が汚れてしまつて……」

214
215 崇敬のスポンが盛り上がっているのを見つけ驚く主人公。

216
217 DHM①やや上

218 崇敬「え？ とうしました……あつ、スポンの真ん中が盛り上がって……

219 す、すみません！ 失礼しました……」

220 拭いていただいた時に刺激を受けて反応してしまったみたいです」

221
222 主人公「どういことですか？」

223 崇敬「(恥ずかしそうに)」

224 あ、いや……最近、忙しくて自分で触れてなかったの。

225 まさかこんなに反応するとは自分でも思っていなくて。

226 本当にすみません……！

227 股間が落ち着くまで、少し待っていただけるとありがたいです……」

228

229 主人公「可愛い」

230

231 DHM①やや上

232 崇敬「(驚き)えっ、か、可愛い……？ 私が？」

233

234 主人公「この後もお仕事ですよ？」

235

休憩時間の間に楽になるのはどうでしょう。」

236

237 崇敬「休憩時間の間に楽について、どうやって……」

238

(はっしん)

239

いや、さすがに職場で性的な処理をするなんてできません」

240

241 主人公「私がお手伝いしますから」

242

243 崇敬「君が処理の手伝いを……!?(慌てて)それはもってまわずですって」

244

245 主人公「ここは憩いの場ですから。職場ではありませんよ」

246

247 崇敬「(シキリキリ)」

248

ここは憩いの場、か……確かにこのままじゃ仕事に戻れないし。

249

でも、お言葉に甘えてもいいでしょうか」

250

251 ◆トラック2
252 ●収録区切り③
253
254 ■場所：社員食堂
255 ■時間：夜
256
257 椅子に座った崇敬。主人公はその前にしゃがんでいる。
258 SE:椅子がきしむ音
259
260 DHM①ややト
261 崇敬「椅子に座りましたが……これでいいんですか？」
262 あ……本当にここでお手伝いをお願いしても問題ないんでしょうか？」
263
264 主人公「いいんです。素敵な方だなと思ってたので」
265
266 崇敬「素敵だなんて……君にそう言っただけで光栄です。
267 本当にお任せしちゃいますよ。」
268
269 ディープキスする主人公。
270
271 DHM①FF
272 崇敬「(ディープキス・6秒程度)」
273
274 崇敬「(キスしながら)ん、ふっ……はあ、社員食堂でキスだなんて。
275 イケないことをしてるようで……ゾクゾクしますね。
276 ちゅ、ちゅく……ん、自分はルールに忠実な人間だと思ってましたが。
277 ちゅぱ、ちゅ、(苦笑し)違反することもできるみたいです」
278
279 崇敬のズボンと下着を下ろす主人公。
280
281 DHM①ややト
282 崇敬「あつ……すみません、脱がせていただいて。
283 言ってもらえたら自分でズボンと下着くらい脱げますので」
284
285 主人公「サービスですから」
286

287

DHM①やや上

288

崇敬「(微笑み)サーブス……」

289

「こんなことしてくれるのは私にだけ、ってうぬぼれていいですか」

290

崇敬の性器をしごき始める主人公。

292

SE:肌が擦れる音+水音・継続

293

崇敬「んあっ！ すみません、私のモノ、大きいでしょう。

295

ん、女性が手でしごくにはっ、大変じゃないですか……？」

296

はあ、ヤっきまで美味しい料理を作っていたこの手が

297

男のチンポを握ってしごいてるだなんて……」

298

主人公「嫌ですか？」

299

主人公「嫌ですか？」

300

崇敬「いえ……ものすごく、興奮します……」

302

まいりましたね……ルールを守らなきゃいけない人間なのにつ。

303

逸脱した行為に興奮するなんてっ」

304

崇敬「(じろえるような喘ぎ・6秒程度)」

305

主人公「看守さんなのに、こんなに可愛いんですね」

308

崇敬「(喘ぎながら)」

310

可愛いなんて、女性に言われたのは初めてです。

311

君もとても魅力的ですよ……ほら、私の下半身も反応してるでしょ。

312

振り返って腹につきそうなほどだ。

313

君の手に包まれてひどく喜んでるんです。

314

ん、看守長をこんなに夢中にさせるなんて、悪い人ですね……」

315

主人公「女性の悪い人にこんな風にされたら大変じゃないですか」

317

崇敬「女性の受刑者にこんなことはさせませんよ。

319

悪い相手には反応だっけません。

320

君だから、剥き出しの欲望をさらけだしてるんです。

321

はあ……血管浮き上がるくらい膨らんでるのも、君相手だからですよ」

322

323 DHM①やや上(上を向いて)

324 崇敬「へっ、先っぽ手のひらで擦るの……どっで覚えたんですか。

325 腰、抜けそつです……

326 素敵な方だなと思って見ていましたが、

327 まさかこんなに積極的だったなんて。驚きました」

328
329 主人公「セクハラだつて逮捕されちゃいますか？」

330

331 DHM①やや上(主人公の方を向いて)

332 崇敬「私は警察官ではありませんから、セクハラされても逮捕はしませんよ。

333 ただ、過ちを犯した者に対しては更生を促さなくてははいけません。

334 その時は……厳しくルールを教えるだけですっ……」

335

336 崇敬「君にも、一度男を本気にさせたらどうなるのか教えなくちゃ。

337 寂しそうな男を可愛がったつもりかもしれませんが……

338 ふーっ……おかげで本気になつてしまいましたよ、

339 ほら……見てください。

340 今すぐ気に入った相手の中に入りたいって、疼いてる……

341 ナあ、今度は私が君に色々教え込む番です。

342 私の膝の上に乗ってください」

343

344 S.E.:肌が擦れる音＋水音・こっぴど

345 崇敬の膝の上に向き合う形で座る主人公。

346

347 DHM①やや下

348 崇敬「美味しそうな香りと、甘い女性の匂い……

349 食欲も性欲も一気に刺激してくれるのは、たまらないですね。

350 ウチの食堂は作業着がありませんから……

351 わざわざ私服にエプロンだなんて、なんて可愛らしい…

352 おかげでエプロンをずらせば、簡単におっぱいも揉みいただけますっ」

353

354 崇敬「ああ……柔らかい……簡単に指が沈み込んでいますね。

355 せっかくですから、このふわふわおっぱいに直接触らせてください。

356 私の更生プログラム、受けてみたいでしょ？

357 私以外の男を簡単にお世話できないようにしてあげましょっ」

358

359 主人公の服と下着をまくり上げる崇敬。

崇敬「ああ……プルンっとおっぱいが「ぼれる瞬間、たまらないですよ。
はあ、ふーっ、これも男を誘ういやらしさですから。

しつかり更生させないっ。

「こんなにゴンドンに乳首も膨らませて……触ってほしいですね」

DHM㊟やや下

崇敬「乳首、爪の先でカリカリっしてあげまじょうね……

体反応しますよ？。乳首、弱いんですか。

じゃあ、摘まんぞこねたらどうかなっちゃうんでしょ。

ほら、こんなふうにな……」

DHMH㊟やや下

崇敬「おっと……そんなに背中反らしたら危ないじゃないですか。

ケガはさせませんよ。

最上級の快樂をもって

『ああ、男を誘惑したら大変なんだ』と気づいてもらいます。

ほら、エプロンの横から「ぼれた」わんわんおっぱい、

突き出してくだわいっ。」

崇敬「(乳首舐め・7秒程度)」

崇敬「(乳首舐めしながら)ん、ちゅ、体を揺らしても、

私がつしり体を押さえこんで逃げられませんよ？。

ちゅぱっ、ちゅ、ちゅへ。

はあ、ああ、美味しい……素晴らしい社員食堂だ。

ずっと味わっていたいです。

ん、乳輪もびびりて膨らんでおっぱいもぐちゃぐちゃですか……ちゅぱっ」

●収録区切り④

388
389
390

DHM③「」

391 崇敬「(耳元で囁く)

392 君がさっきから腰を前後に「コ」させてるのも
393 気づいてますからね？ 下半身も刺激がほしくなっちゃったんでしょ？」
394

395 崇敬「(耳舐め・8秒程度)」
396

397 崇敬「(耳舐めしながら)ちゅば、ちゅ、はぁ……」
398

399 ふーっ、普段スカートで働いてたんですね。

400 いつもカウンスター越しなので気づきませんでしたよ。

401 でもあまりお勧めはしませんね、

402 ココは看守もスタッフも男ばかりですから。

403 いやらしい目を向けられることもあるでしょう。

404 私以外にこの肌を見せないつもりなら、足を隠してくだわい」
405

DHM②「」

406 崇敬「でなきや、こんなふうには、足を開かされて

407 下着の横から指を入れられてしまうかもしれないよ。」
408

409 下着の横から指を入れ、主人公の性器を愛撫する崇敬。

410 SEE:性器に触れる水音・継続
411

412 DHM②「」

413 崇敬「はぁ、ん……ヌルヌルじゃないですか。それに熱い……」
414

415 割れ目の外側まで、ぐっしり濡れてますね。

416 乳首舐め回されただけで、こんなにびしょ濡れになるなんて。
417

スケベなんですな」
418

DHM①「」

419 崇敬「ああ、割れ目の外に飛び出してるの、クリですか。
420

パンパンに膨らんでる……」

421 小さいチンポだって言われても信じちゃったくらい勃起してますね」
422

423 DHM⑦E11

424 崇敬「(耳舐めしながら)ちゅ、じゅnanan」。

425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456

「じゅ、唇べったりつけてしゃぶったらどっとなっちゃうんですか？
割れ目に舌差し込んで、中グチャグチャかき回しながら、
クリも頬張ってあげたいですよ。」じゅなふじゅ……じゅnananan」

崇敬「ん、指ぎゅーって締め付けちゃってる……甘イキしちゃいました？

可愛いですね。でもまだクリは勃起状態でピンピン……

君のスケベな蜜絡ませて、じゅいてあげましょうね。

シリン「シリンシリン」

434 DHM⑧E11

435 崇敬「ああ、だめですよ。腰引こうとしたってそうはいきません。

君の体は私がつしり抱え込んでるんですから、逃がしませんよ？

主導権を握るつもりだったのかもしれませんが、残念でしたね。

クリを潰されてしごかれながら、よく聞いてください？

この仕事をしてる人間が、

やれるがままになるわけじゃないですか。

穏やかそうに見えても、案外違ってることもあります。

覚えておくといい」

444 DHM⑨E11

445 崇敬「(耳元で囁く)あー、体全部震えてきちゃいましたね。

クリシリン「やれるのそんなに気持ちいいんですか？

必死にうんうんって頷くと」可愛い……

しっかり返事ができるいい子には、」褒美も必要ですね。

クリの皮軽く剥いて指でタップしてあげましょうか。ん、んっ。

いい子いい子って擦られるほうが好きですか？ いい子いい子。

ぷりぷりに膨らんで破裂しそっなクリ、

指で摘まんて撫で回してあげますよ。

ん、ふ、はぁっ、はぁっ」

主人公「イク……ー」

457 DHM⑧「ん」

458 崇敬「必死な声も可愛いですね。もうイキそうなんですか？

459 いいですよ、すっかり私に体を押し付けて絶頂してください。

460 私にちゃんとイキ顔を見せてくださいね。」

461

主人公絶頂する。

463 SE:椅子がきしむ音

464

465 崇敬「ん、くっ……ヨダレたらして、すごくスケベな顔してますね。

466 おかげでチンポが反応しっぱなしだ」

467

主人公「入れてください」

469

470 崇敬「えっ、入れる？ すみません、今あいにくゴムを持ってないので。

471 私も君の中に入れてたい気持ちはありますが、入れるわけにはいきません」

472

主人公「でも、ほしゅて……」

474

475 DHM①

476 崇敬「んっー はあっ、我慢できずにチンポの先を撫でるなんて……

477 やっぱり君は悪い人だ。

478 では、入れずに気持ち良くなるのはどうでしょう。

479 下着だけ脱いでください」

480

主人公の下着を下ろす崇敬。

482

483 DHM①

484 崇敬「これでよし……また私の膝の上に向き合うように座ってください。

485 ーっの体勢で、気持ちいいーっろを擦り合わせまじゅっ」

486

性器同士を擦り合わせる崇敬。

488 SE:性器同士が触れ合う水音・継続

489

崇敬「(喘ぎながら)ん、ふっ、んんっ、熱い……」

君のトロトロおまんこで溶けてしまっそうですよ。

これならっ、ルール違反でもないですっ……ん、ああっ。

お互い気持ちよくなれるでしょ？

はあ、君の言うケースバイケースですね。

ん、ああ、君も気持ちいいようで安心しました……」

崇敬「腰、ヤツキから動いていますよ。

はあ、チンポに浮き出た血管に」

クリ擦りつけてオナニーしてるんですね。

私のも我慢汁でヌルヌルなので丁度いいでしょ……」

崇敬「(喘ぎ・8秒程度)」

崇敬「チンポを玩具にして気持ち良くなるの、癖になりそうですか？

んあ、必死に腰力クつかせて、擦りつけて……動物みたいです。

私も同じように、気持ち良くなりたくて夢中ですけど。

口開けて、舌出してっださ……上も下もつながりましょっ」

DMM①FM

崇敬「(ディープキス・7秒程度)」

崇敬「(ディープキスしながら)残念ですが、私は簡単に逃がしませんよ。

君にいろんなことを教え込みますからっ。

おまんこの奥、ビラビラもじっくり擦りながら。

チンポの先でクリも押しつぶすのが気持ちいい、とかね……」

崇敬「(喘ぎ・7秒程度)」

主人公「イッちゃっっ」

DMM①

崇敬「ん、ふっ、ああっ、私もそろそろイキそうです……」

はあ、ん、ののまま、気持ち良くなりましょっ。んっ、くっ」

崇敬「(喘ぎ・7秒程度)」

527 崇敬「出るっ……ん、くっー！」

528

529 二人同時に達する。

530 SE:椅子がきしむ音

531 SE:性器同士が触れ合う水音・二丁まで

532

533 崇敬「(荒い呼吸・7秒程度)」

534

535 崇敬「(荒い呼吸で)」

536 ふーっ、はぁっ、順番が逆になってしまつて恐縮なのですが。

537 私とお付き合いをしてくれませんか？」

538

539 主人公「えっ、あの、責任とか気を使わないでください」

540

541 崇敬「いえ、責任を感じてるとか気を使つてゐるわけじゃないんです。

542 本気で君のことを欲しいと思つたから、申し出ているんですよ。

543 そもそも、好きではないと、最初の時点で受け入れませんし……

544 君やえよければお付き合いして頂きたい」

545

546 主人公「はい、是非！」

547

548 崇敬「よかつた……はぁっ、少し休んだら片づけ手伝います。

549 休憩時間はまだありますから、もう少し一緒にいさせてください」

550

◆トランク3

●収録区切り⑤

■場所：ゴミ捨て場

■時間：夕

崇敬が部下と話しているのを聞いてしまう主人公。

SE:足音・数歩

DHM⑩(マイクと反対を向いて)

崇敬「(冷たく)わざわざここに呼び出された理由はわかっていますね？」

どうして、夜の見回りの記録が残っていないのですか？

忘れていたなんてことはありませんよね？」

部下「その時間は具合が悪くて」

崇敬「なるほど、体調が悪かったと。」

本来ならば上司として事実を確認すべきですが。

そのような不毛なことはしません。

しかし見回りができない際は報告をして指示を仰ぐべきでしょう。

看守が見回りに来ないことで、

脱走や自傷行為をさせてしまうことがある。

ルールを守るのは受刑者だけでなく、我々も同じです。わかりますね？

もう二度と同じことは繰り返さないでください」

部下「は、はい。」

崇敬「もう行っていいですよ」

立ち去る部下。

SE:遠ざかる足音・数歩

DHM⑩(主人公の方を向いて)

崇敬「まったく……仕事すらルールになっていては、だめだな」

主人公の気配に気づき、驚く崇敬。

SE:足音・一歩

588

DHM②

589

崇敬「えっ……!?ど、どうして君がこんなところっ?

590

ああ、そっか。「ミミ捨て」に来たんですかね……そっですよね。

591

今から戻るんですか?」

592

593

主人公「はい」

594

595

崇敬「今のやりとり、見ていたんですか……? すみません」

596

597

主人公「かっこよかったです」

598

599

DHM①

600

崇敬「(苦笑し)かっこよかった、ですか?」

601

しかも重大なインシデントだったので、厳しく叱ってしまっつ……

602

見苦しい姿をお見せしてしまい申し訳ありません。

603

今日はもう行かなくてはいけないので……またあとでお話しまっつ

604

605

SE:立ち去る足音・数歩

606

607

■場所:仮眠室

608

■時間:夜

609

610

休憩中の崇敬の元へやってきた主人公。

611

SE:ドアの開閉音

612

SE:足音・数歩

613

614

DHM①

615

崇敬「ああ、送ったメッセージ見てくれたんですね。

616

仮眠室なら他に誰もいないので呼んでしまいました。

617

しばらく休憩になるので話をしたいと思いまっつ。

618

(恥ずかしがって)

619

すみません、仕事中に会いたがるのはよくないですよね……

620

気になっていた人と恋人になれたことで、

621

どうやら私も浮かれてるみたいです」

622

623

DHM①END

624

崇敬「(ニヤニヤキス・8秒程度)」

625 DHM①E二

626 崇敬「(キスしながら)

627 ん、せつかく会えたので、少しだけ……触れさせてください。

628 ん、ちゅ……」の前君と社員食堂で触り合ってから、

629 ランチを食べる度にドキドキしていますよ……困ったものです……」

630

631 崇敬「はあっ、はあっ……ん、急にキスしてしまってすみません」

632

633 主人公「いいんです。あの、一つお願いが」

634

635 DHM①

636 崇敬「お願い？ いいですよ、なんでも言ってくください」

637

638 主人公「私にも、夕方喋ってたように厳しく話してください」

639

640 崇敬「(驚き)

641 えっ、厳しく？ 夕方みたいにつて……ああ、そうか。

642 部下とのやりとりを見ていたんでしたね。

643 (困惑し)いや、あれは……彼が仕事をしなかったから叱っただけで。

644 君は悪いこともしていませんし、ルールを破ってもいないですよ」

645

646 主人公「じゃあ……

647 ーこんなところで杜瀬さんとエッチなことしようとしています」

648

649 崇敬「(動揺)」

650 私と、エッチなことを……」でしようとしてたんですか。

651 ただ話をしに來ただけじゃないんですか？」

652

653 主人公「でも……杜瀬さんと狭い部屋にいたらドキドキ」

654

655 崇敬「そうですね……狭い中にいたら、そんな気分になってしまった、と。

656 呼び出してしまった私にも責任はありますが。

657 キスをしただけでムラムラしてしまうなんて、いけない子ですね」

658

659 主人公に近づくと崇敬。

660

661 DHM③「
662 崇敬「(耳元で囁く)
663 「これは、またおしおきと更生プログラムが必要な」
664
665 DHM②「
666 崇敬「休憩時間の間だけここを使えるので、長くは一緒にいられません。
667 その間に、しっかりお仕置きをしなくてははいけませんね」
668
669 ドアの鍵を閉める崇敬。
670 SE:ドアに近づく足音+ドアの鍵を閉める音
671
672 DHM②
673 崇敬「まずは怪しいものを持っていないか、確認しなくちゃいけませんね。
674 服を脱ぎましょう。私が脱がせますから動かないで」
675
676 主人公の服を脱がせる崇敬。
677
678
679 崇敬「下着も、全部脱がせますよ……大概、隠しものは下着の中ですから」
680
681 崇敬「(興奮して)
682 はぁ……穴という穴、全部確認しなくてははいけませんね。
683 悪いものをしまっている可能性もありますから……
684 確認しましょう、口を開けて舌を出しなさい」
685
686 DHM①「
687 崇敬「(ティップキス・7秒程度)」
688
689 崇敬「はぁ、ふう……口の中には、何もいれていないようだ……
690 次はこちらです」
691
692 DHM⑦「
693 崇敬「(耳舐め・6秒程度)」
694

崇敬「おかしいですね、体をビクビク震わせて。

何かやましいことでもあるんじゃないんですか？

もつと中に舌を差し込んで

グチュグチュにかき回してみなくちゃいけませんね」

DHM③「」

崇敬「(耳舐め・6秒程度)」

崇敬「(耳舐めしながら)はふ、ちゅ、この穴は問題なさそうだ。

次は、もつと体の下の方も確認しましょうね。

ベッドの上で足を開いて、両足の間がよく見えるようにしなさい」

●収録区切り⑥

ベッドに座り、M字開脚になる主人公。

SE:ベッドがきしむ音

DMM①やや上

崇敬「従順じゃないですか。他の者のお手本になれそうだ。

それに、とてもいい眺めですよ。

足を限界まで開いてるおかげで、割れ目もばつくり開いています。

この前じつくり擦り上げた場所もよく見えてるなあ……」

崇敬「おや、割れ目が震えてますね？

ひょっとしたら何か隠してるのかもしれない……

もっとよく調べるので、見せなさい。

仰向けになって、腰を高く上げるんです。「じつやっつ——」

主人公をまんぐり返しの状態で腰を高く上げさせる崇敬。

SE:ベッドがきしむ音

DMM①下

崇敬「くりもパンパンに膨らんで勃起して、

いやらしい姿になってるじゃないですか。

それになんだか中が濡れてるようだ……

奥まで確認する必要がありますね。

舌を差し込んで調べてみまじょう」

崇敬「(性器舐め・7秒程度)」

崇敬「(性器舐めしながら)

じゅるるっ、じゅるるん溢れしちゃう……

これはますます怪しい。おまんこの奥に何かあるんですか？

「じつやっつ舌を奥に差し込むだけじゃ……

入り口もぢゅっつ締まっています。」

ん、ぢゅっつ。お位置が変わって喜んでるのうっに見えますよね。」

742 崇敬「ちゅぽ……こんなポーズで大事なところを舐め回されて
743 恥ずかしいのですか。

744 男に大事な部分しゃぶられてるんですよ？

745 目をそらすことなく見なさい。

746 舌を奥まで入れられて、ジュルジュル音立てて下品に舐め回されて……
747 それでこんなに甘い声を上げられるのですか……いやらしい人だ」
748

749 DHM①ト

750 崇敬「(バキュームしながらの性器舐め・8秒程度)」

751

752 軽く絶頂する主人公。

753 SE:ベッドがきしむ音

754

755 崇敬「腰がビクンビクンしている……」

756 おまんこを乱暴にしゃぶられてイッてしまったんですか？

757 君がそんなにいじめられて喜ぶ人だとは思わなかったですよ」

758

759 DHM①

760 崇敬「自分で自分のことを傷つける可能性があるなら、

761 拘束しなくちゃいけませんね。

762 やすがに本物の拘束衣を着せるわけにはいきませんが、

763 同じポーズで体を縛り上げてあげましょう。

764 やあ、反対の肘を掴むようにして、前で腕を組みなさい」

765

766 肘を掴むような体勢で腕を組む主人公。

767 SE:肌が擦れる音

768

769 崇敬「丁度いい。このタオルで腕を固定しましょう。動かないように」

770

771 主人公の腕を拘束する崇敬。

772

773 DHM①E11

774 崇敬「これで動けませんね……」

775 暴れたり自分を傷つける者は、このように拘束しておくんです。

776 でも、君のように縛られて

777 うつとりとした顔を見せる者はいませんでしたよ」
778

779 DHM⑦「」

780 崇敬「(耳元で囁く)本当に変態なんですね……」

781 簡単に拘束を解いてしまう者もいますから

782 ちゃんと拘束できたか確認しなつては」

783

784 DHM⑧「」

785 崇敬「はい、腕でおっぱいを隠せばよかったのに。

786 しっかりと出ているところとは、触ってほしいところマドールですか？

787 乳首もツンと立って、乳輪も膨らんでいますよ。」

788 両方摘まんで、こねてあげましょう。ほら、「リ」「り」「……」

789

790 身悶える主人公。

791 SE:ベッドがきしむ音

792

793 崇敬「ああ、爪の先で引つ搔かれるほうが好きなんですって？

794 優しくカリカリしてあげましょうね……ん、はあ、どうですか？

795 腕は拘束が外れないようですが……

796 腰がいやらしく動いているじゃないですか。

797 あーあー、割れ目からトロツと蜜が垂れていますよ。

798 お仕置きだって言っているのに、何を期待してるんでしょう？

799 嘘をつかずに教えてくれますか？

800 君のスケベおまんこが何を求めているのか」

801

802 主人公「崇敬さんがほしくて……」

803

804 DHM①「」

805 崇敬「(興奮)」

806 私がほしい、というのは……セックスしたいということですか。

807 生で、私のチンポを奥まで差し込んでお仕置きしてほしいとっ。

808 ならば、きちんと報告と申請をして頂かないといけませんよ。

809 腰をへこへこさせてる変態でも、それくらいで喜んでっつもの？

810 『ふんけたおまんこ』

811 勃起チンポでお仕置きと教育をしつくだわん』と

812 口に出して伝えてっくだわん」

813

814 服と下着を脱ぐ崇敬。

815

●収録区切り⑦

DHM①

崇敬 「このゴムゴムのモノで奥までかき回してほしいんじゃないですか？
はぁ、ん、先っぽまで膨らんで、我慢汁が溢れてる……
カリも血管も浮き上がっていますから、しつかり教育できそうだ……
早くしないと、お仕置き時間が短くなります。言いなさい」

主人公「そろけたおまんこに、

勃起チンポでお仕置きと教育をしてください」

DHM①

崇敬 「よく言えました……では足を開きなさい。
一番奥まで一気に入れますよ」

正常位で挿入

SE:挿入時の水音

崇敬 「あぁっ……キツっ……中、熱い……こんなにそろけさせて……
ん、看守長である私を啜え込んでどうしようとしてたんですか？
でも簡単に君の思うようにはなりませんよ？
悪いことを考える相手には、
毅然とした態度でわからせるつもりですからっ」

SE:ピストン音・継続

崇敬 「(ピストン・7秒程度)」

DHM②「」

崇敬 「(喘ぎながら)出し入れするたびにっ、締め付けてきてるっ。
それにその顔……気持ちよそっにとろけてるじゃないですか？
はぁ、んっ、言ったでしょっ、
これはお仕置きであり更生プログラムだつて。
君のおまんこをそろけさせるためにっ、
腰を振ってるんじゃないですよ？
わかっていますかっ？」

853 崇敬「何度も必死にうなずいていますけど。」

854 さつきから、おまんこは同じくらいビクビクしてるじゃないですか。

855 ほらっ！奥まで突き上げるとっ、体ごと震えてるっ！

856 看守長に「こまでっ、激しくお仕置きされてっ、

857 喜ぶ人間はっ、君だけですよっ！」

858
859 主人公「ごめんなさいっ」
860

861 崇敬「(ゾクゾクっ)

862 ごめんなさいって声も、突き上げる時の

863 グチユグチユ音で全然聞こえませんよっ。

864 おまんこところけすぎじゃないですか。

865 そのうち、お仕置きだということ忘れてっ、

866 子宮が降りてきてしまいそうですね……！

867 その時は、容赦なく入り口に精子を注ぎ込むつもりですからねっ！」

868
869 主人公「お願いしますっ……」
870

871 DHM①E11

872 崇敬「(ゾクゾクっ)

873 お願いしますっ………本当に変態だな………！

874 それはつまり、精子で孕ませてくたさいって言ってるんですか！

875 「希望通り、奥までドクドク思い切り注ぎ込んであげましょう。

876 いいですねっ！」
877

878 S.E.:ピストン音・激しくなる
879

880 崇敬「(激しいピストン・6秒程度)」
881

882 崇敬「(喘ぎながら)

883 精子、せり上がってきてるっ………すっ、ん、はあっ、ああっ！

884 ん、ああっ、自分がこんなに情熱的に腰を振るなんてっ

885 知らなかったですよ………！

886 君のおかげで、どんどん知らなかった自分を見つけられてるっ！

887 でも、戻れなくなりそうだ………責任、取ってもらえますか？」
888

889 主人公「もちろんです」

890 DHM⑧E」

崇敬「もちろん、と言いましたね？ 聞き逃しませんでしたよっ！

891 君も更生プログラムとお仕置きなしでは

892 生きられない体にしてあげますからっ。

893 くっ……締まってる……はあっ、はあっ、危ない、イクところだった……

894 これからのことを想像しただけで、

895 おまんこきゅんきゅんしたんですか？

896 ほんとにっ、スケベですねー」

897

898 崇敬「(激しいピストン・8秒程度)」

900

崇敬「くっ、ああっ、もう、出ますっ！ イク、イクイクイク！

901 中につ、出しますよー！ これもっ、お仕置きですっ！

902 熱々精子しっかりおまんこで飲み干しなさい！

903 くっ、あ、ああああっー」

904

905 二人同時に達する。

906 SE:ベッドがきしむ音

907 SE:ピストン音・10秒まで

908

909 DHM①E」

崇敬「(荒い呼吸・7秒程度)」

910

崇敬「(荒い呼吸で)

911 ふう、ふうっ、中に、出しちゃいました……はあ、ん、はあっ。

912 くっ、んんっ……まだ腰動かしてるんですね。

913 はあ、もっとお仕置きをしてほっくっくっですか？」

914

915 頷く主人公。

916

崇敬「まだ時間もありますし、続きをしましょっか……」

917

922 ◆トラック4

923 ●収録区切り⑧

924

925 ■場所：仮眠室

926 ■時間：夜

927

928 DHM①

929 崇敬「はぁ……拘束したままお仕置きと更生プログラムの続きをしましょう。

930 私の腰の上に乗れますか？ 手伝いますね……んっ」

931

932 拘束状態の主人公を自分の上に乗せ、主人公がまたがる体勢になる。

933 SE:シャツが擦れる音

934

935 DHM①下

936 崇敬「ふーっ……君の上にまたがられて、下から見上げるのは新鮮ですよ。

937 このままゆっくり腰を落として、挿入してみてください。

938 チンポもすっかり固くなってますから、簡単に中に入ると思いますよ？

939 オォぁ、モタモタせずに急ぎなさい」

940

941 ゆっくりと腰を落とし挿入する主人公。

942 SE:挿入時の水音

943

944 崇敬「んっ……はぁ、あぁっ。ぬるんって奥まで入っちゃいましたね。

945 背中そんなに反らして……入れただけで甘イキしちゃったんですか。

946 体も自由がきかない状態で、下から貫かれてイクだなんて。

947 君はMなんですね……でも丁度いい。私と相性ピッタリだ。

948 受刑者も、社会復帰をするために

949 刑務作業をすることは君も知ってるでしょ？

950 君は変態にならないため、自分で腰を動かす大変さを学びましょう」

951

952 腰を動かし始める主人公。

953 SE:ゆったりとしたピストン音・継続

954

955 崇敬「ん、くっ……そう、上手ですよ……」

956 ただ足を開いてチンポを待つただけではっ、更生できませんからねっ……

957 腰を動かす大変さご気持ち良々、

958 体で覚えてくださいつ。ん、はあっ、んんっ。

959 ほっ、ただ口開いてだらしない顔で腰動かしてちゃ意味がない。

960 どこをどんなふうに突き上げるといいのかもっ、確認するんですー！」

961 主人公「はいっ」

962

963

964 DMM①ト

965 崇敬「ああっ。返事だけは素晴らしいですね……」

966 体は、ガニ股で、おっぱいを揺らしながらっ、

967 必死に腰上下させてるっっていうのこ。

968 くっ……チンポが出し入れされてるところもよく見えますよっ。

969 すっ、締まってるっー！

970 勝手に気持ち良くなっついといひは言ってないでしょうー！

971 まず、体がどうなっているのか、どんな気持ちか報告しなさいっー！」

972

973 主人公「気持ちいいですっ。すっく、気持ち良くてっー！」

974

975 崇敬「はあ、気持ちいいだけでは何もわかりませんよー！

976 きちゃんと報告しなさいっ。おまんこはどんなふうにとろけていてっ！

977 どうやってチンポを咥え込んでいるんですかっ？

978 はあ、ふっ、んんっ……お腹のどこに先っぽが届いているのかも、

979 こちらから見えませんか君に報告義務がありますっ。

980 おへその下あたりですか？

981 外から軽く押して確認してみましようか。この辺り、ですかっ……っ？」

982

983 主人公「ん、ああっー！」

984

985 崇敬「はあ、はあっ、んんっ、

986 正解だからっつっ、締め付けすぎですっー！んあっー！」

987

988 SE:ピストン音・激しくなる

989

990 DHM②ヨリ(主人公が身体をたおした状態になるため)

991 崇敬「くっ、激し……んああっ、気持ち良くなるためっ、

992 夢中で腰振ってるんですねっ！

993 腰グラインドさせないでくださいっ………チンポ、もみくちやになるっ！

994 看守長相手につ、こんな激しく腰を振るなんていい度胸ですねっ………！」

995

996 崇敬「(激しいピストン・6秒程度)」

997

998 主人公「イク、イっちゃっー」

999

1000 DHM②ヨリ

1001 崇敬「んあっ、もう興奮しすぎてわけわからなくなってるんですか？

1002 全部がとろけきつて、ものすごくスケベな顔になって……

1003 はぁ、くっ、更生プログラムじゃ対応しきれませんねっ！

1004 中、震えてる……搾り取られるっー！」

1005

1006 主人公絶頂し潮吹きする。

1007

SE:潮吹き音

1008

SE:ピストン音・11秒ほど

1009

1010 DHM①

1011 崇敬「(荒い呼吸で)勝手に気持ち良くなって、

1012 体をのけ反らせてイッたところか、

1013 潮吹きまでするなんて……これは完全に処罰対象ですよ？」

1014

1015 主人公「す、すみませ……」

1016

1017 崇敬「謝りながらも、おまんこはビクビクしっぱなしじゃないですか。

1018 期待してる証拠でしょう？ 激しく教え込まなきゃだめですね……

1019 はぁ、拘束を解きますから、うつぶせになりなっ！」

1020

1021 主人公の拘束を取り、うつぶせにする。

1022

SE:衣擦れ+ベッドがきしむ音

1023

1024 DHM⑤やまと

1025

崇敬「すべこできましたね、えらいですよ。

1026

素直なところ褒めてあげましょっ。」

1027

DHM⑤やや下

1028

崇敬「でも、勝手に腰を振って

1029

潮吹きした罰を受けていただかないといけませんからね。

1030

うしろから入れます……力を抜いてください」

1031

●収録区切り⑨

1032
1033
1034

寝バックの体勢で挿入する崇敬。

1035
1036
SE:挿入時の水音

1037
DHM⑤「」

崇敬「うしろからのしかかられた状態で、

1038
1039
奥まで挿入された気分はどうですか……

1040
すごい締め付けですね……体をよじらせても、

1041
簡単には逃がしませんよ……」

1042
ん、君は私にされるがまま、奥まで突き上げられなさいっ。

1043
1044
これが罰ですから。もちろん勝手に絶頂するのは許しませんよっ」

1045
1046
SE:ピストン音・継続

1047
DHM④「」

崇敬「(ピストン・8秒程度)」

1048
1049
1050
崇敬「(喘ぎながらくっくっ、何度もっ、

1051
中ビクビクしてるじゃないですかっ。

1052
はぁ、はぁっ、ひよっとしてイキっぱなしになってるんですかっ？

1053
勝手にイカないようにと言いましたよねっ」

1054
1055
主人公「ごめんなさいっ」

1056
1057
崇敬「はぁ、ん、謝りながらもっ、おまんこ反応してるぞじょっっ。

1058
私に黙って気持ち良くなろっとしてもダメですよ……」

1059
ベッドに押し付けられてっ、腕まで抑え込まれてるのじょっ……

1060
うしろからパンパン突き上げられて犯されても気持ち良くなるなんて。

1061
君にとってはっ、罰もご褒美になってしまっんですねっ。

1062
いけない子だ……」

1063
1064
DHM③「」

崇敬「(ピストン・8秒程度)」

1065
1066
主人公、再び絶頂する。

1067
1068
SE:ベッドがきしむ音

1069 崇敬「くっ……またイッちゃいましたね……ん、ふーっ……
1070 はぁ、はぁっ……」

1071 あぁ、腰ガクガク震わせてイキまくって、ほんと可愛い。
1072 でも、まだ腰止めてあげない……もっといい顔、見せて……」

1073
1074 主人公「は、はいっ。すぐ気持ちいいですっ……」
1075

1076 DHM④「っ」

1077 崇敬「(素になり)」

1078 まいったな、そこまで全部素直に伝えてくれたら可愛くて仕方ない。
1079 君の前では看守長の肩書が取れて、ただの男に戻されるよ……
1080 ずっと、ルールは守るものだって思ってきたのに。

1081 君といると、色々な境界線が緩くなりそうだ……

1082 はぁっ、はぁっ、ただがむしゃらに腰を動かしたい！

1083 更生とか、罰とか関係なく……君とセックスしたくてしょうがないっ」
1084

1085 SEE:ピストン音・激しくなる
1086

1087 DHM⑤「っ」

1088 崇敬「ん、くっ！ はぁっ、全部忘れて、

1089 今は君に夢中になっていいんだよね？
1090

1091 俺はっ……もう君のことしか考えられないからっ。

1092 はぁ、んっ、君は俺の価値観全部ひっくり返したんだよ。

1093 ルールよりも大事なことがあれば、優先してもいいんだって……

1094 今までならそんなこと考えもしなかったのにっ！

1095 君が教えてくれたんだ……ありがとう。

1096 ルールより、君と気持ち良くなること優先だっ……！
1097

んっ、チンポ膨らんできた」

1098 DHM⑦「っ」

1099 崇敬「(耳元で囁く)濃厚精子、君に種付けする準備万端だ。

1100 中に注ぎ込んでもいいんだよね？」
1101

1102 主人公「出してっ」
1103

1104 DHM⑥E」

1105 崇敬「そつ言つてくれるつて思つたよー！

1106 くっ、中、ぎゅーつて締まつてるっ！

1107 すっ」……はあ、君はっ、俺をただのオスにする気なのかっ!」

1108

1109 崇敬「(激しいピストン・8秒程度)」

1110

1111 崇敬「(喘ぎながら)くっ、んんっ！ ああっ、中に出すよ……

1112 しっかりおまんこ開いて、俺の精子受け止めて……！

1113 イク、イクイクイク！ 出るっ！ ん、あ、ああああっ！」

1114

1115 二人同時に達する。

1116 SE:ベッドがきしむ音

1117 SE:ピストン音・止まる

1118 主人公の横に転がる崇敬。

1119 SE:シャツが擦れる音

1120

1121 DHM⑦

1122 崇敬「(荒い呼吸・7秒程度)」

1123

1124 DHM⑧

1125 崇敬「(荒い呼吸で)はあ、ふっ、ん、中に出しちゃった……

1126 ごめん、大丈夫だった？

1127 しかも素になっちゃつて。

1128 はあ……普段はこんな感じなんだ。がっかりさせてないといいんだけど」

1129

1130 主人公「素顔が見られて嬉しい」

1131

1132 崇敬「ん、素顔見られて嬉しい？ そつ言つてくれると安心するよ。

1133 体、大丈夫？ ちょっと無理させちゃったな。

1134 (軽くキスをして)

1135 ちゅ……ふ、俺はますます君のこと好きになつたよ。

1136 欲望にも自分の気持ちにも素直な君が、本当に眩しい。

1137 もっと、いろんな君のこと見たくなる……」

1138

1139 主人公「私も崇敬さんのいろんな姿見たいな」

1140

1141 D H M ①

1142 崇敬「俺のいろんな姿？ ん、いいよ、君に俺の全部見せてあげる。

1143 俺、明日は休みなんだけど。今晚でも明日でも、俺の家に来る？」

1144

1145 主人公「はい！」

1146

1147 崇敬「決まりだね。じゃあ、ウチに来たら一緒にご飯作ろう。

1148 君と食事できるなんて嬉しいよ……これから、よろしくね」

1149

1150

【END】